



《第13号古墳 (石室) の解体調査》

今まで調査していた第13号古墳は、石室内の調査が終了したため石室の解体調査に入りました。
側壁には2～4段の河原石が積み、奥壁には3個の石が立っています。側壁の石を上段から徐々に取り外したところ、上段と下段の石はほとんど接しておらず、隙間に土を入れて積んでいることがわかりました。加工していない河原石が崩れないように積んだ当時のやり方がわかり興味深かったです。ちなみに、もっとも重い奥壁の石は、75kgありました。



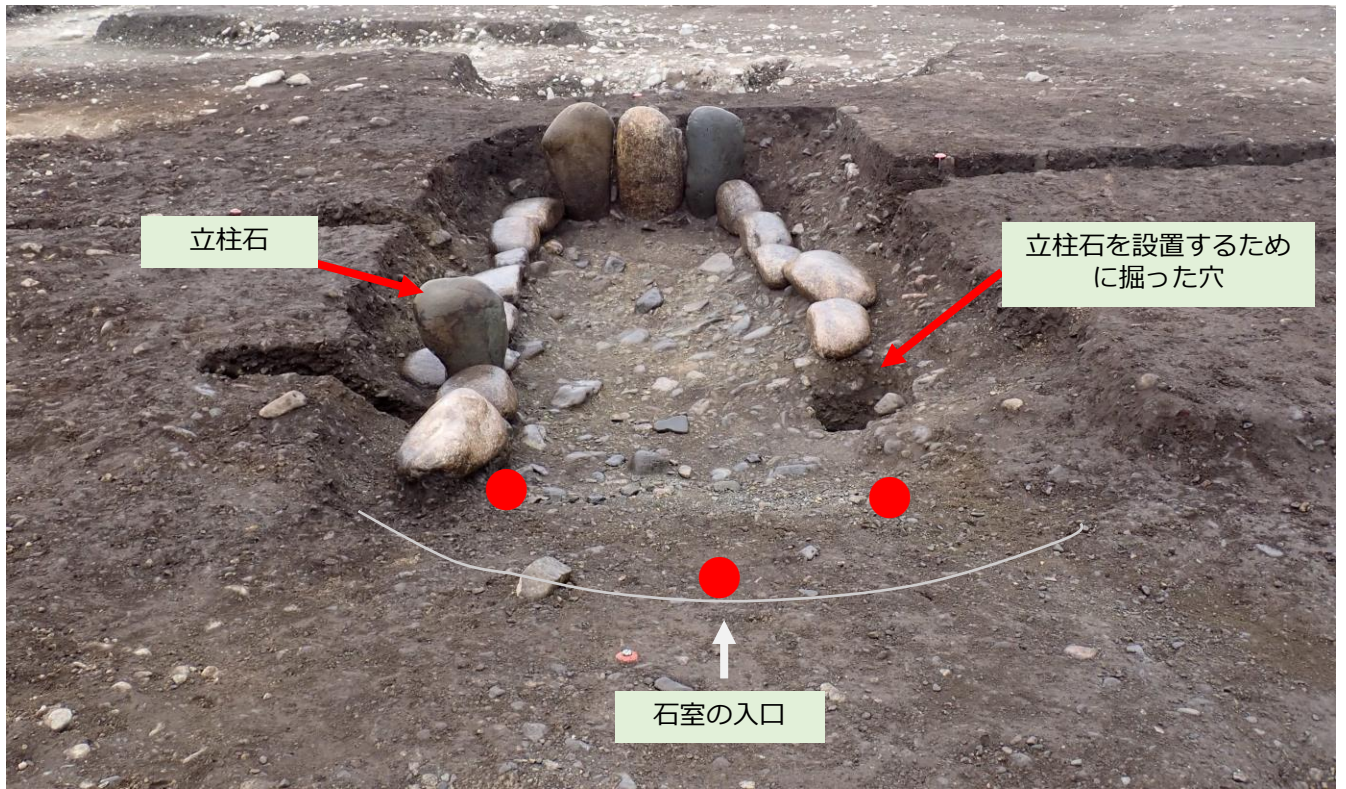
第13号古墳 石室の解体風景



側壁の石を取り上げた状況 (赤丸：石が接している場所)



奥壁の石を取り上げている状況



第13号古墳 最下段の石まで取り外した状況 (赤丸はピット)

第13号古墳は、石室の内側に石の平坦な面をそろえて設置しています。石は石材から、梓川の河原から採取したと考えられますので、河原では平坦な面がある石を選んで採取したと考えられます。第13号古墳の調査は、石室の石すべて取り外して記録も終了しました。

《全容を現した第12号古墳》

安塚古墳群では、令和3年度に松本市教委が行った試掘調査で発見された第12号古墳（石室）の規模・形状を捉える調査も行いました。石室が発見された場所を拡張して精査したところ、奥壁から開口部（入口）までの長さ^{かいこうぶ}が約6m、幅約1.5mの規模を有する石室であることがわかりました。今回調査した第13号古墳の約2倍の大きさです。

安塚古墳群は、昭和53年（1978）に松本市教委により圃場整備に伴う発掘調査が行われ、大小2種類の古墳（石室）があることがわかりました。松本波田道路の用地内にも大小2種類の古墳が複数あることがわかっていて、来年度以降の調査がさらに期待されます。



第12号古墳 精査風景



(問い合わせ先)
 長野県埋蔵文化財センター
 〒388-8007 長野市篠ノ井布施高田963-4
 電話：026-293-5926
 担当：河西
 支援業務：(株)島田組
 南山/丹生/植野/加藤
 メール：maibun@naganobunka.or.jp
 H P：<https://naganomaibun.or.jp>